

◎高松市生涯学習基本計画「いきいき高松まなびプランⅢ」の推進状況について

[1] 概要

高松市生涯学習基本計画「いきいき高松まなびプランⅢ」（計画期間：平成25年～29年度）に掲載した全事業の平成28年度の推進状況について、事業担当課で評価点（様式1）及び達成度（様式2）の自己評価を行いました。

*再掲事業を除く。

●（様式1）取組事業推進状況一覧 *「事業数」は再掲事業（54事業）を除く実事業数。

基本方針	施策体系	事業数	評価点別 事業数						平均評価点	
			5点	4点	3点	2点	1点	評価不可		
Iまなぶ	1 ライフステージに応じた学びの環境づくり	44	19	16	4	1	0	4	4.3	4.4
	2 家庭の教育力の向上	18	6	12	0	0	0	0	4.3	
	3 学校における多様な学びの機会の充実	23	15	7	1	0	0	0	4.6	
	4 地域の教育力の向上	23	11	9	3	0	0	0	4.3	
	5 学びの場の充実と活用	11	7	4	0	0	0	0	4.6	
IIいかす	1 学びの成果を活かせる環境づくり	10	3	2	3	0	0	2	4.0	3.9
	2 社会参加と自己表現につながる学びの機会の充実	6	1	2	3	0	0	0	3.7	
IIIつなぐ	1 学びでつなぐ人や地域のネットワークづくり	9	2	4	2	0	0	1	4.0	4.2
	2 地域を担う人材・団体の育成	14	4	8	1	0	0	1	4.2	
	3 豊かな学習資源の充実	14	5	4	2	0	0	3	4.3	
IVひろげる	1 生涯学習情報の拡充	13	7	4	2	0	0	0	4.4	4.4
	2 生涯学習における情報化の推進	7	4	2	1	0	0	0	4.4	
総合計		192	84	74	22	1	0	11	4.3	

- ★評価点：5点（設定した目標が達成されている等、十分成果が上がっている）
 4点（成果が上がっているが、更なる取組による成果向上の余地がある）
 3点（一定の成果が上がっているが課題もあり、更なる改善が必要である）
 2点（成果が十分に上がっておらず、更なる改善が必要である）
 1点（抜本的な見直しが必要である）

●（様式2）目標達成状況一覧 ＊「事業数」は再掲事業（54事業）を除く実事業数。

基本方針	施策体系	事業数	達成度別 事業数					平均評価点	
			A	B	C	D	評価不可		
I まなぶ	1 ライフステージに応じた学びの環境づくり	44	12	20	8	0	4	3.1	3.3
	2 家庭の教育力の向上	18	9	7	1	0	1	3.5	
	3 学校における多様な学びの機会の充実	23	13	7	3	0	0	3.4	
	4 地域の教育力の向上	23	11	7	4	0	1	3.3	
	5 学びの場の充実と活用	11	7	1	3	0	0	3.4	
	施策体系にはないが、目標値の設定がある事業（＊1）	2	0	1	1	0	0	2.5	
II いかす	1 学びの成果を活かせる環境づくり	10	6	0	2	0	2	3.5	3.3
	2 社会参加と自己表現につながる学びの機会の充実	6	4	0	2	0	0	3.3	
	施策体系にはないが、目標値の設定がある事業（＊1）	1	0	0	1	0	0	2.0	
III つなぐ	1 学びでつなぐ人や地域のネットワークづくり	9	2	4	2	0	1	3.0	3.1
	2 地域を担う人材・団体の育成	14	2	7	3	0	2	2.9	
	3 豊かな学習資源の充実	14	6	3	2	0	3	3.4	
IV ひろげる	1 生涯学習情報の拡充	13	5	2	2	0	4	3.3	3.4
	2 生涯学習における情報化の推進	7	4	1	1	0	1	3.5	
	総合計	195	81	60	35	0	19	3.3	

- （＊1） No.151 図書館図書市民一人あたり貸出冊数（年間）
 No.152 生涯学習をしている人の割合（市民意識アンケート調査）
 No.173 ボランティア活動に参加した人の割合（市民意識アンケート調査）

- ★達成度：A（目標を達成した。目標値の100%以上）
 B（概ね計画どおり進行した。目標値の80%以上100%未満）
 C（計画よりも遅れた。目標値の80%未満）
 D（未着手のまま）

- ★評価点：A→4点、B→3点、C→2点、D→1点

[2] 分析結果

平成 28 年度の平均評価点は、「様式 1」では 4.3 点で、前年度と同点でしたが、「様式 2」では、3.3 点となり、前年度と比べて 0.1 点減少しました。

事業別で比較しますと、評価が前年度と比べて良くなった事業は、「様式 1」では 34 事業、「様式 2」では 29 事業でした。

これは、各課で、参加者のニーズを取り入れたり、幅広い年齢層が参加できるよう企画するなど、事業内容に工夫を凝らしたほか、No.155 の「観光ボランティアガイド事業」では、新人ガイドとベテランガイドとの意見交換会を設けるなど、新しい世代の育成・指導にも力を注いだことなどが功を奏したものと考えられます。

また、広報活動では、市ホームページや広報たかまつの活用はもとより、コミュニティセンターや、IKODE 瓦町（瓦町 FLAG 8 階）など集客力がある施設にチラシ等を設置したり、若い世代等への周知を図るために、フェイスブックなどの SNS を活用するなど、多様な情報発信に努めたことなどにより評価が上昇した事業がみられました。

一方、前年度よりも評価が下がった事業は、「様式 1」では 28 事業、「様式 2」では 37 事業となりました。

この原因の多くは、参加者数や実施回数の減等によるものでしたが、法改正や事業目的達成に伴う事業縮小等により、必然的に評価点が低下した事業もありました。

また、基本方針別では、4 つの基本方針のうち、「様式 1」では「Ⅱ いかす」が、また「様式 2」では「Ⅲ つなぐ」が、それぞれ、低い評価点となりました。

これは、学んだ成果を地域などで活かすための活動が広がっていないことや、次代を担う人材・団体の育成がそれほど進んでいないことなどが、その要因と考えられます。

このようなことから、今後、本市における生涯学習の一層の推進を図るためには、市民ニーズを踏まえて、事業がより良いものとなるよう、開催日などの見直しや、早い時期から PR を行うなど、事業内容の充実を図ることはもとより、生涯学習事業を、まちづくりや地域の活性化等につなげていく仕組みづくりや、生涯学習活動の核となるリーダー育成等に一層力を注いでいくことが大切であると思われま